第１８章　葬斎施設

葬斎施設は、通夜・告別式等葬儀と火葬を行う施設です。人生終焉の場にふさわしい荘厳さと機能性を兼ね備えるとともに、会葬者に対しては、悲しみを和らげ、心に安らぎを与え、落ち着いた雰囲気の中で故人を偲ぶことができるように配慮されています。また、外観をはじめ、周辺環境とも調和のとれた施設であることが望ましいといえます。

第１節　葬斎施設

葬斎施設は、市民生活を送る上では欠かすことのできない施設ですが、開設からおよそ２０年が経過し、特殊な設備の維持管理には多額の費用がかかっています。

１　施設概要

現在の施設【メモリアル彩雲】は、1997（平成９）年度に建て替えたもので、現在の熊谷市及び旧川本町（現深谷市の一部）までを計画区域とし、従前の火葬場機能に斎場機能を加え、整備されました。その概要は図表 18-1-1 のとおりです。

【メモリアル彩雲】は、その佇まいが地域の景観に配慮されていることなどから、当時、埼玉県知事より景観奨励賞を受賞しました。施設は斎場棟と火葬棟に区分されますが、地下通路で行き来ができるなど、利便性も考慮した設計となっています。

また、集会室は、「葬斎施設建設に伴う地元還元施設」として設置された経緯を踏まえ、広く一般への開放はせず、その維持管理費を市が負担しながら、周辺の地域住民又は団体の使用に供されています。

【図表18-1-1】施設概要（葬斎施設）

No.	名称		敷地面積（㎡）	建築年度	延床面積（㎡）	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	備考
①	葬斎施設【メモリアル彩雲】	斎場棟	13,177.63	1996	2,543.19	2056	2026	○		地下連絡通路54.6㎡のうち、27.48㎡を含む。
		火葬棟		1996	1,588.67	2056	2026	○		地下連絡通路54.6㎡のうち、27.12㎡を含む。
		集会室	505.00	1996	99.37	2036	2016	○		【大原ふれあいｾﾝﾀｰ】
	合計		13,682.63		4,231.23					

２　配置状況

施設の位置は、次頁の図表 18-1-2 のとおりです。

合併前に、旧熊谷市に加え、旧大里村・旧江南町・旧妻沼町・旧川本町までの利用を念頭に計画され、適正距離・投資効果等採算性も考慮され、おおむね本市の中心部に建設されました。

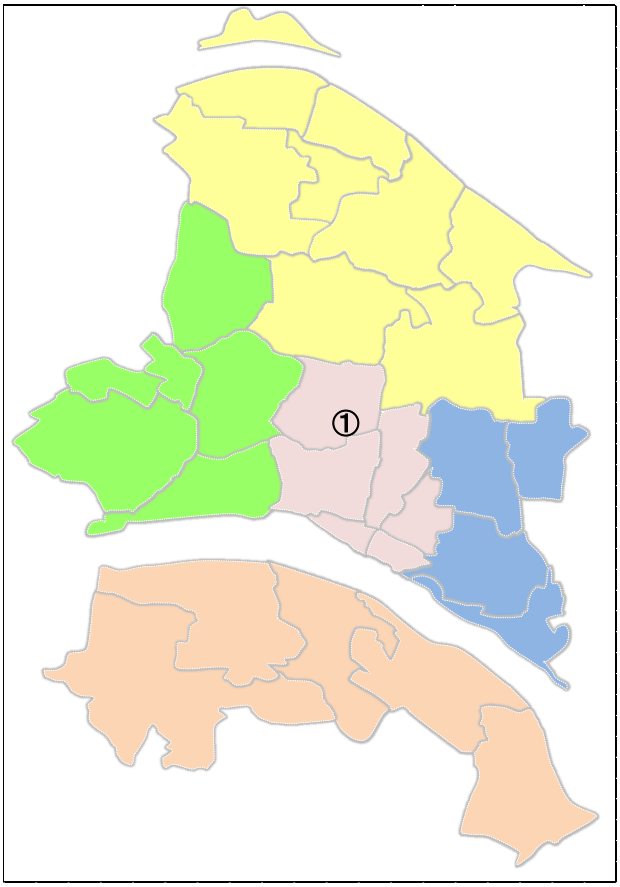
３　利用状況

利用状況は、次頁以降の図表 18-1-3 Ａ及び Ｂのとおりです（※１）。Ａの表は施設全体について過去３年間（2013～15 年度）の平均値を、Ｂの表は主に式場について経年の推移を示しています。

斎場棟では、１階の式場で通夜、葬儀・告別式が行われ、地下の待合室で火葬中の待合いや通夜膳・本膳の提供等が行われています。

（※１）斎場棟・火葬棟の利用者には、市民以外の利用者も含まれていますが、ここでは区別せずに集計しています。

【図表18-1-2】配置状況（葬斎施設）



火葬棟には炉が６つありますが、通常は１日６枠（９時、９時３０分、１０時、１３時、１３時３０分、１４時３０分の６枠）・１枠当たり２炉を使用しているため、１日当たり最大で１２体をお預かりしています（※２）。火葬件数は、ここ数年微増傾向にあり、今後もこの傾向は続くことが見込まれます。

一方で、民間事業者による式場の整備が進んだこともあり、式場の利用件数は徐々に減っています。それでも、火葬棟と斎場棟が地下通路で行き来ができるため、天候の影響を受けないことや移動に係る時間や経費の節減ができることなどにより、９０％近い高い稼働率となっているものと思われます。

火葬炉の使用時刻ごとの使用状況は、次頁の図表18-1-３Ｃのとおりです。午後枠の稼働率が８０～９０％代後半と非常に高いことから、多くの方が葬儀後の火葬を望まれていることが分かります。反面、午前枠の稼働率は低いため、全体としては５０％台後半の稼働率となっています。また、友引翌日のみの１２時枠についても需要が高いことが伺われます。

火葬件数の経年推移は、次頁の図表18-1-３Ｄのとおりです。

【図表18-1-3 A】利用状況（葬斎施設）

2013～15年度の3か年平均

No.	名称		年間開館日数（日）ⓐ	年間利用者数（人）ⓑ	開館1日当たり利用者数（人/日）ⓑ／ⓐ	稼働率	備考（諸室、設備等）
①	【メモリアル彩雲】	斎場棟	303	215,135	710	49.3%	第1式場（110席）＋控室（36人）、第2式場（80席）＋控室（36人）、待合室6室（各36人）＋待合ホール（41人）
		火葬棟	303	2,164	7	56.3%	火葬炉6炉、告別室2室、収骨室2室
		集会室	360	1,920	5	12.0%	和室18畳　2間
	合計（全体）			217,055	715		火葬件数を除く。

＊　火葬棟の「年間利用者数」は、火葬件数です。

【図表18-1-3B】式場の利用状況等（葬斎施設）

年度	開館日数（日）	火葬件数（件）	式場の利用件数（件）	式場稼動率
2013（H25）	303	2,132	534	88.1%
2014（H26）	303	2,216	538	88.8%
2015（H27）	304	2,144	514	84.4%
平均	303	2,138	531	87.7%

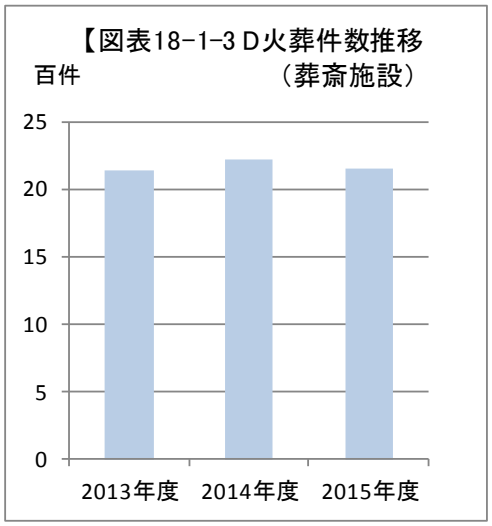
＊　「式場稼働率」は、「式場の利用件数」を、式場数（2）と「開館日数」の積で除して計算しています。
　第1・第2式場のみの稼働率であり、待合室の分は含みません。また、「式場の利用件数」は、通夜・葬儀・告別式のセットで1回として数えています。

（※２）友引（葬儀・告別式・火葬を行わない。）の翌日のみ、１１時と１２時の２枠・計４体分を追加し、１日当たり最大で１６体をお預かりしています。

【図表18-1-3C】火葬炉の使用時刻ごとの使用状況（葬斎施設）

年度／時刻（枠）	2013（H25）			2014（H26）			2015（H27）			2013年度対比増減数（件）	2013年度対比増減率（%）	備考
	件数（件）	稼働率	割合	件数（件）	稼働率	割合	件数（件）	稼働率	割合			
9:00	77	13%	0.04	79	13%	0.04	70	12%	0.03	−7	−9%	通常日
9:30	99	17%	0.05	116	19%	0.05	86	14%	0.04	−13	−13%	〃
10:00	337	56%	0.16	327	55%	0.15	313	52%	0.15	−24	−7%	〃
11:00	45	38%	0.02	48	40%	0.02	37	31%	0.02	−8	−18%	友引翌日のみ
12:00	72	60%	0.03	81	68%	0.04	77	64%	0.04	5	7%	〃
13:00	568	95%	0.27	577	96%	0.26	583	97%	0.27	15	3%	通常日
13:30	448	75%	0.21	477	80%	0.22	476	79%	0.22	28	6%	〃
14:30	486	81%	0.23	511	85%	0.23	502	84%	0.23	16	3%	〃
計	2,132	56%	1.00	2,216	58%	1.00	2,144	56%	1.00	12	1%	

＊「件数」は火葬件数、「稼働率」は対象の時刻における通年での炉の稼働率、「割合」は各時刻（枠）が全体（計8枠＝1.00）」の中で占める割合です。



4　コスト状況

人件費を含めたコストの状況は、図表 18-1-4 のとおりです。

葬斎業務という性格上、コスト優先という考え方はなじまない面もありますが、使用料等の収入により費用（コスト）合計の約３６％を賄っています（図表 18-1-7 参照）。

【図表18-1-4】コスト状況（葬斎施設）　　単位：千円

No.	名称	費用（コスト）				収入				正味コスト ⓒ−ⓓ	備考（管理方法等）
		維持管理運営費		減価償却費ⓑ	合計 ⓒ=ⓐ+ⓑ	（経常）			（臨時）		
		（経常）ⓐ	（臨時）			使用料等	その他	合計ⓓ			
①	【メモリアル彩雲】（斎場棟・火葬棟）	122,778	15,296	38,310	161,088	58,743	323	59,066	0	102,022	直営
	【メモリアル彩雲】（集会室）	1,260	0	1,396	2,656	0	0	0	0	2,656	〃
	合計	124,038	15,296	39,706	163,744	58,743	323	59,066	0	104,678	

5　災害時の役割

【メモリアル彩雲】は、災害発生時の避難場所・避難所には指定されていません。

むしろ、大規模災害の発生時には、葬斎・火葬業務に対する需要が高まる場合があるため、本来業務を優先すべきこととなります。特に火葬業務については、県下に甚大な被害を及ぼす大規模な災害の折には、「広域火葬」という観点から、他所の被災施設復旧までの間、業務継続を図ることも要請されます。

6　管理運営の状況

【メモリアル彩雲】は直営となっていますが、火葬炉の運転管理業務や警備・清掃業務については、民間業者に委託しています。県内他市町村においては、老朽化した施設の建替えや大規模修繕に併せて、指定管理者制度やＰＦＩ等の方法により民間ノウハウの導入を図っている例もあります。今後、効率性や利便性の向上を図るための選択肢の一つです。

7　利用者・市民の負担状況

火葬１件当たり（斎場棟・火葬棟の場合）又は施設利用者１人・利用１回当たり（集会室の場合）のコストや市民１人当たりの年間コスト（負担状況）は、図表 18-1-7 のとおりです。

葬斎施設は、人が一生に一度は必ず利用する場所です。「その時」が人それぞれ違うことと、「希望によって利用する場所ではない」ことを除けば、市民全員が「利用者」であり「負担者」でもあります。誰にでも訪れる「その時」のために、適正な費用負担のあり方について検討を進める必要があります。

【図表18-1-7】利用者又は市民の１人当たりコスト（負担状況）（葬斎施設）　　単位：円

No.	名称	利用者1人・利用1回当たり					利用者負担額が市のコストに占める割合 Ⓐ／Ⓔ	市民１人当たり年間コスト（負担額）				備考（利用者負担額が維持管理運営費に占める割合） Ⓐ／Ⓑ
		利用者負担額 Ⓐ	市のコスト									
			維持管理運営費 Ⓑ	減価償却費 Ⓒ	その他経常収入 Ⓓ	合計 Ⓔ= Ⓑ+Ⓒ−Ⓓ		維持管理運営費 Ⓕ	減価償却費 Ⓖ	経常収入 Ⓗ	合計 Ⓕ+Ⓖ −Ⓗ	
①	【メモリアル彩雲】（斎場棟・火葬棟）	27,146	56,737	17,703	149	74,291	36.5%	608	190	293	505	47.8%
	【メモリアル彩雲】（集会室）	0	656	727	0	1,383	0.0%	6	7	0	13	0.0%

＊　斎場棟・火葬棟の「利用者1人・利用1回当たり」の数値を計算する際の分母は、火葬件数です。

8　合併等に伴う整理統合の状況

【メモリアル彩雲】は、合併前に、旧熊谷市・旧大里村・旧江南町・旧妻沼町・旧川本町を含む１市３町１村による広域施設として建設され、利用されてきており、また、市内唯一の施設であるため、より広域での施設更新・利用を想定するのでない限り、整理統合は既になされているとみなすこともできます。

9　耐震化及び老朽化対策の状況

耐震性能は基準を満たしていますが、1997 年度の供用開始から 20 年が経過し、空調設備や防水機能に老朽化による不具合が生じていますので、大規模修繕が必要です。

【付録】施設白書の検討過程の概要

年月日等		事　　項
2015年度		全庁的なデータの収集・確認等の作業
		埼玉県主催の会議等への出席、先進団体視察等による情報収集
		庁内組織（施設分野別検討会）の編成と策定作業の方針決定
2016年	5月～	施設分野別検討会による検討を開始
	5月16日 11月10日 11月17日 11月25日 12月22日	アセットマネジメント推進会議（主に課長級で構成された庁内会議。策定委員会の下部組織）を計5回開催。当時は「基本計画各論」としての位置付けで検討
	12月20日	アセットマネジメント計画策定委員会（主に部長級で構成された庁内会議）開催。基本計画とは別に「施設白書」として作成することを決定
2017年	5月30日	アセットマネジメント計画策定委員会開催。取りまとめ方針を確認
	5～7月	取りまとめ方針に基づき、施設分野別検討会と事務局にて素案を作成
	8月 2日	アセットマネジメント推進会議開催。素案を検討
	8月22日	アセットマネジメント計画策定委員会開催。白書案を検討・承認
	9月14日	白書作成

熊谷市公共施設白書
平成２９年９月

熊谷市総合政策部行政改革推進室　作成
048-524-1111（内線２１０）